

令和4年度加美町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

加美町は、宮城県の北西部に位置し、西は奥羽山脈を隔てて山形県尾花沢市及び最上町、北から東は大崎市、南は加美郡色麻町に接している。

水稲は、「ひとめぼれ」、「まなむすめ」を中心に広く生産が行われているが、西部地域では「みやこがねもち」に代表されるもち米栽培を奨励しており、県内有数のもち団地を形成するなど、世界農業遺産「大崎耕土」の一角として宮城の美味良質米づくりに取り組んでいる。また、管内JAにおいて、専用カントリーエレベーターを整備するなど、実需と結びついた飼料用米の生産も行っている。

水稲以外では、転作田を活用した飼料作物の生産・供給体制等の整備による畜産振興を行っているほか、農業生産法人や集落営農組織を中心とした大豆と飼料用米等のブロックローテーションの取組や、ねぎ、加工業務用野菜等の園芸作物の振興も図っている。

しかし、若年新規就農者の減少や基幹的農業従事者の高齢化等により、担い手、後継者不足が顕著となっており、イノシシなど鳥獣被害の拡大も課題となっている。また、コロナ禍により拍車がかかった主食用米の需要減少や、これに伴う米価の下落、生産資材価格の高騰に加え、水田活用の直接支払交付金の見直しで、5年後に交付対象から除外される農地が増えることによる大幅な収入減少も予想されており、これに伴い作り手がなくなる農地の新たな荒廃化も懸念されている。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

主食用米については、一層の米価下落を食い止めるため、需要に応じた生産とするよう誘導しつつ、経営の複合化による農家所得の向上を図るため、地域振興作物である「ねぎ」、「たまねぎ」、西洋野菜等の生産拡大を推進する。加工業務用野菜は、需要に即した品目の作付誘導を図ることとするが、生産性向上のため、国や県の補助事業を活用した機械・技術の導入を推進し収益力の強化を図る。

大豆については、麦・大豆収益性・生産性向上プロジェクト等を活用して、団地化の推進、農地の集約化等を図り、生産拡大に取り組むこととする。

また、これまで取組のなかった小麦について、大豆とのローテーションの中で取り入れられないか、次期作以降に向けた検討を進めていく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

加美町における水田利用は、東部の平坦地域では水稲のほか大豆等の土地利用型作物の作付けが多く、西部等の山間地域では牧草等飼料作物の作付けが多く行われる状況となっている。また、河川堤外地においては、ねぎや大豆等畑作物の作付けが行われている。

令和3年度～5年度の畑地化重点支援期間においては、農業委員会、JA等関係機関と連携し、数年以上畑作物のみが作付けされている水田の調査・リスト化を行い、地域の意向を把握しながら国の畑地化支援等を活用するなど、水田畑地化の推進を図ることとする。

令和3年度に行った点検においては、平成29年～令和3年の5年間において、畑作物のみの作付けが行われ水張り（水稲作付）が行われなかった水田が676haほど確認された。（令和3年度水活交付対象農地の約4割）その中で、水稲作付が可能な水田については、基本的に、今年度以降、水稲を含めた輪作体系への移行を促していくこととするが、すでに転換作物が定着しているなど移行が困難な農地については、振興作物等高収益作物の取組が定着しているほ場を中心に水田農業高収益化推進助成の活用による畑地化を推進していくこととする。

4 作物ごとの取組方針等

（1）主食用米

全国的な主食用米の需要を見極めつつ、販売環境に左右されない産地として生き残るため、高品質、良食味米を安定供給する産地として、実需者のニーズに沿った作付誘導を実施し、加美米の強みである「環境保全米」、「酒米」、「もち米」等、多彩な品種構成による「売れる米づくり」に取り組む。

さらに、新品種栽培の取組により、産消提携米の拡大に努め、最終消費者と強く結びついた産地の形成を目指す。

（2）備蓄米

主食用米の需要量の減少が見込まれる中、主食用米と同様の品種で作付が可能なため、県別優先枠を最大限に活かした取組を図る。

（3）非主食用米

ア 飼料用米

産地交付金を活用し、団地の形成と直播栽培・疎植栽培の導入により作業効率の向上と低コスト化を図るほか、多収品種を中心に作付を誘導し、大豆との輪作体系による転作団地の固定化を推進し、施肥コスト低減と単収の向上に努める。また、コンタミネーション、不正規流通の防止を徹底するため、専用カントリーエレベーターに全量集荷し、バラ出荷体制の確立による流通コストの低減を図る。さらに、実需からの要望に応え、複数年契約の取組により供給の安定化を図る。

イ 米粉用米

価格が高騰する輸入小麦の代替品としての需要が高まっていることから、産地交付金を活用し、実需（学校給食、地元製粉会社）との結びつきを強化しつつ新規需要の開拓も進め、生産数量の拡大を図る。

ウ 新市場開拓用米

産地交付金を活用し、実需が求める多収性品種での取組により、供給量の確保と低コスト化を図り、中長期的に販路の拡大を目指していくこととする。

エ WCS用稲

飼料自給率向上のため、草地の拡大が困難な地域で水田を利用した自給飼料の増産を図る。また、耕種農家と畜産農家の結びつきにより、輸入飼料に頼る畜産農家へ安価で安定的に供給可能な地域内での粗飼料供給体制整備に努める。

オ 加工用米

飼料用米、WCS用稲に取り組めない地域へ作付誘導を図り、作付拡大を推進する。また、実需者からの要望に対応できるよう産地交付金を活用してもち米の作付拡大に取り組み、もち団地の維持を図る。

(4) 麦、大豆、飼料作物

麦は、特に小麦について、大豆とのローテーション作物として取り入れられないか、次期作以降に向けた検討を進めていく。

大豆については、産地交付金を活用し、認定農業者、集落営農組織等の担い手に農地を集積し、団地化の誘導により生産性の向上と低コスト化を図る。また、暗渠、明渠の施工などによる排水対策を行い、作付するほ場条件の改善を図るとともに、連作障害の回避のため、ブロックローテーションや飼料用米との輪作体系による転作団地の固定化を推進し、品質の向上と収量の安定化を図り、取組面積の拡大に努める。

飼料作物は、牧草について、引き続き団地化を推進し優良粗飼料の確保に努めることとするが、今年から播種から収穫までを行わない年に係る戦略作物助成が減額され、取組面積の縮小が懸念されることから、長年更新されていない草地については更新を促すとともに、産地交付金を活用した新たな助成を行うことで取組の縮小をできる限り食い止めつつ、必要に応じて他品目への転換等も促していくこととする。また、他の作物と比べ低コストかつ省力的な生産が可能とされる子実用を含む飼料用とうもろこしについて、畜産農家と連携を図ったうえで、鳥獣害等による影響も考慮しつつ、産地交付金での支援により、適地における取組を推進していく。

(5) そば、なたね

「そば」については、実需者との契約に基づき安定的な供給を図るため、産地交付金を活用し、排水対策、複数の収量向上対策によりほ場条件を改善し、収量の向上と作付面積の拡大を図る。

「なたね」について、取組はない。

(6) 地力増進作物

地力増進作物は、産地交付金を活用して取組を推進し、化学肥料や農薬に頼らない生産環境を構築することで、高収益作物や有機農業をはじめとする環境保全型農業への転換を促進する。

本町では、大豆の前作としてダイズシストセンチュウの抑制効果が高いクローバー、有機物の供給効果が高く西部地区に広がる黒ぼく土においてリン酸すき込み量の多いソルガム（ソルゴー）を推奨していくこととする。

(7) 高収益作物

産地交付金を活用し、地域振興野菜、加工業務用野菜、西洋野菜等の栽培面積を拡大するとともに、実需との結びつきを強化し、その要望を取り入れた生産・流通体制の確立を図る。また、農業生産法人、集落営農組織等の担い手への集積とともに、国や県の補助事業を活用により、園芸機械導入を支援し作業体系の効率化を推進する。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	2,891.6		2,737.8		2,655.0	
備蓄米	14.4		14.4		14.0	
飼料用米	519.5		600.0		600.0	
米粉用米	13.9		15.0		16.0	
新市場開拓用米	12.3		9.5		10.0	
WCS用稲	234.9		262.5		270.0	
加工用米	43.7		52.0		55.0	
麦	0.0		0.0		1.0	
大豆	334.6	13.3	345.0		350.0	
飼料作物	557.7	17.4	532.0	8.0	535.6	6.0
・子実用とうもろこし ・青刈りとうもろこし ・牧草 ・その他	0.0		0.0		0.0	
	2.2		2.4		2.8	
	542.7	17.4	517.6	8.0	520.8	6.0
	12.8		12.0		12.0	
そば	10.9		11.0		11.5	
なたね	0.0		0.0		0.0	
地力増進作物	0.0		0.4		0.5	
高収益作物	99.2		107.5		109.3	
・野菜	85.7		93.0		94.6	
ねぎ、たまねぎ	38.7		38.0		39.0	
加工用野菜(トマト除く) 西洋野菜	26.9		32.0		32.0	
加工用トマト	2.9		3.5		3.6	
その他の野菜	17.2		19.5		20.0	
・花き・花木	0.9		1.0		1.0	
・果樹	1.7		1.7		1.7	
・その他の高収益作物	10.9		11.8		12.0	
山菜	9.6		10.5		10.7	
その他	1.3		1.3		1.3	
その他	0.0		0.0		0.0	
畑地化	0.0		0.0		10.0	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物 (すべて基幹作物)	用途名	目標	前年度(実績)	目標値
1	ねぎ、たまねぎ、加工用野菜、西洋野菜	重点地域振興作物助成	作付面積	(R3年度) 65.6ha	(R5年度) 71.0ha
2	加工用トマト	最重点地域振興作物助成	作付面積	(R3年度) 2.9ha	(R5年度) 3.6ha
3	山菜	山菜作付助成	作付面積	(R3年度) 9.6ha	(R5年度) 10.7h
4	野菜、果樹、花き、花木、その他の高収益作物	その他作物助成	作付面積	(R3年度) 20.6ha	(R5年度) 24.0ha
5	米粉用米	指定品種加算① (米粉用米)	作付面積	(R3年度) 13.9ha	(R5年度) 16.0ha
6	加工用米	指定品種加算② (加工用米)	作付面積	(R3年度) 43.7ha	(R5年度) 55.0ha
7	新市場開拓用米	新市場開拓用米 多収性品種取組助成	作付面積 10aあたりの収量	(R3年度) 3.4ha (R3年度) 541kg	(R5年度) 4.0ha (R5年度) 615kg
8	そば	そば収量向上対策助成	作付面積 10aあたりの収量	(R3年度) 10.9ha (R3年度) 6.5kg	(R5年度) 11.5ha (R5年度) 7.0kg
9	大豆	大豆生産性向上助成	作付面積 10aあたりの収量	(R3年度) 334.6ha (R3年度) 174kg	(R5年度) 350.0ha (R5年度) 190kg
10	青刈りとうもろこし、子実用とうもろこし	飼料用とうもろこし振興助成	作付面積 10aあたりの収量	(R3年度) 2.2ha (R3年度) 800kg	(R5年度) 2.8ha (R5年度) 1,000kg
11	牧草(播種を行わずに収穫のみを行ったもの)	飼料作物振興助成(牧草)	牧草による取組の R3年度との面積比較	(R3年度) - ha (525ha)	(R5年度) 220ha (515ha)
12	飼料用米	団地加算① (飼料用米で2ha以上の団地化)	団地化面積 10aあたりの労働時間	(R3年度) - ha (R3年度) - h	(R5年度) 255.0ha (R5年度) 18.9h
13	飼料作物	団地加算② (4ha以上(個人1ha以上)の団地化)	団地化面積 10aあたりの労働時間	(R3年度) 375.1ha (R3年度) 4.5h	(R5年度) 375.0ha (R5年度) 4.0h
14	大豆	団地加算③ (大豆収量向上対策)	団地取組面積 10aあたりの収量	(R3年度) 134.7ha (R3年度) 174kg	(R5年度) 185.0ha (R5年度) 185kg
15	飼料用米	複数年契約加算 【国枠】	複数年契約取組面積・数量	(R3年度) 458.8ha・2,421t	(R5年度) 500.0ha・2,645t
			作付面積・数量	(R3年度) 519.1ha・2,927t	(R5年度) 600.0ha・3,174t
	米粉用米		複数年契約取組面積・数量	(R3年度) 11.3ha・60t	(R5年度) 13.0ha・69t
			作付面積・数量	(R3年度) 13.9ha・70t	(R5年度) 16.0ha・85t

16	新市場開拓用米	新市場開拓用米取組助成【国枠】	作付面積	(R3 年度) 3.5ha	(R5 年度) 4.0ha
17	そば	そば振興助成【国枠】	作付面積	(R3 年度) 10.9ha	(R5 年度) 11.5ha
18	地力増進作物	地力増進作物助成【国枠】	作付面積	(R3 年度) - ha	(R5 年度) 0.5ha
19	新市場開拓用米	複数年契約加算 (新市場開拓用米) 【国枠】	複数年契約取組面積	(R3 年度) - ha	(R5 年度) 4.0ha
			作付面積	(R3 年度) 3.5ha	(R5 年度) 4.0ha

産地交付金の活用方法の概要

整理番号	使 途 (すべて基幹作)	単 価 (円/10a)	対 象 作 物	取 組 要 件 等 (取組要件が複数ある場合は、代表的な取組のみ記載)
1	重点地域振興作物助成	40,000	野菜(別紙1のとおり)	作付面積に応じて支援(実需者等への出荷・販売)
2	最重点地域振興作物助成	45,000	加工用トマト	作付面積に応じて支援(作付面積1a以上)
3	山菜作付助成	20,000	高収益作物(山菜) ※作物名は別紙2のとおり	作付面積に応じて支援(作付面積1a以上)
4	その他作物助成	20,000	野菜、果樹、花き、花木、その他の高収益作物 ※作物名は別紙3のとおり	作付面積に応じて支援(作付面積1a以上)
5	指定品種加算① (米粉用米)	5,000	米粉用米	指定品種による取組、育苗・移植作業の省力化の等生産性向上のための取組(別紙4)
6	指定品種加算② (加工用米)	5,000	加工用米	指定品種による取組、育苗・移植作業の省力化の等生産性向上のための取組(別紙4)
7	新市場開拓用米 多収性品種取組助成	10,000	新市場開拓用米	指定の多収性品種(「げんきまる」または「まなむすめ」)による取組
8	そば収量向上対策助成	10,000	そば	畝立て播種栽培等の収量向上対策の取組
9	大豆生産性向上助成	1,000	大豆	排水対策等の生産性向上の取組(別紙5)
10	飼料用とうもろこし振興助成	5,000	青刈りとうもろこし、子実用とうもろこし	排水対策等の生産性向上の取組
11	飼料作物振興助成(牧草)	5,000	牧草(播種を行わずに収穫のみを行ったもの) ※作物名は別紙6のとおり	作付面積に応じて支援(実需者等への出荷・販売)
12	団地加算①(飼料用米)	3,000	飼料用米	集積面積2ha以上かつ、一団地概ね2ha以上
13	団地加算② (飼料作物)	5,000	飼料作物(別紙7のとおり)	集積面積 (集落営農組織)4ha以上かつ、一団地概ね1ha以上 (個人・法人)1ha以上かつ、一団地概ね0.5ha以上
14	団地加算③ (大豆収量向上対策)	4,000	大豆	団地化(4ha以上かつ、一団地概ね1ha以上)、有機物散布
15	複数年契約加算【国枠】	6,000	飼料用米、米粉用米	育苗・移植作業の省力化等生産性向上の取組
16	新市場開拓用米取組助成 【国枠】	20,000	新市場開拓用米	作付面積に応じて支援(新規需要米取組計画の認定)
17	そば振興助成【国枠】	20,000	そば	作付面積に応じて支援(実需者等への出荷・販売)
18	地力増進作物助成【国枠】	0	地力増進作物(別紙9のとおり)	ほ場へのすき込み
19	複数年契約加算 (新市場開拓用米)【国枠】	10,000	新市場開拓用米	作付面積に応じて支援(新規需要米取組計画の認定)

(別紙1)

産地交付金助成対象作物・品目一覧表(重点地域振興作物)

作物名	分類	備考
ねぎ	野菜	
たまねぎ	野菜	
加工用はくさい	加工用野菜	
加工用にんじん	加工用野菜	
加工用キャベツ	加工用野菜	
加工用えだまめ	加工用野菜	
加工用かぼちゃ	加工用野菜	
加工用たまねぎ	加工用野菜	
加工用だいこん	加工用野菜	
西洋野菜※1	西洋野菜	

(内訳)

※1 西洋野菜:サボイ

(別紙2)

産地交付金助成対象作物・品目一覧表(山菜)

作物名	分類	備考
その他山菜※1	高収益作物(山菜)	
うど	高収益作物(山菜)	
しどけ(もみじがさ)	高収益作物(山菜)	
ぜんまい	高収益作物(山菜)	
こごみ	高収益作物(山菜)	
行者ニンニク	高収益作物(山菜)	
ワサビ	高収益作物(山菜)	
つくね芋	高収益作物(山菜)	
タラノメ	高収益作物(山菜)	
わらび	高収益作物(山菜)	
ふき	高収益作物(山菜)	
うるい	高収益作物(山菜)	
自然薯	高収益作物(山菜)	
きのこ類※2	高収益作物(山菜)	

(内訳)

※1 その他山菜: アイコ、クワダイ、ノビル、コシアブラ、ウコギ

※2 きのこと類: しいたけ、なめこ、まいたけ、しめじ、エリンギ

トビタケ、万年茸、アガリクス、キクラゲ、ヒラタケ、ハクレイダケ

(別紙3)

産地交付金助成対象作物・品目一覧表（重点・最重点地域振興作物、山菜以外）

作物名	分類	備考
きゅうり	野菜	
トマト	野菜	
なす	野菜	
ピーマン	野菜	
かぼちゃ	野菜	
いちご	野菜	
すいか	野菜	
メロン	野菜	
キャベツ	野菜	
はくさい	野菜	
ほうれん草	野菜	
パプリカ	野菜	
レタス	野菜	
だいこん	野菜	
にんじん	野菜	
さといも	野菜	
れんこん	野菜	
しょうが	野菜	
えだまめ	野菜	
青さやいんげん	野菜	
未成熟とうもろこし	野菜	
食用ばれいしょ	野菜	
食用かんしょ	野菜	
アスパラガス	野菜	
とうがらし	野菜	
ししとう	野菜	
オクラ	野菜	
セロリー	野菜	
カリフラワー	野菜	
ブロッコリー	野菜	
しゅんぎく	野菜	
みつば	野菜	
パセリ	野菜	
シソ	野菜	
ニンニク	野菜	
ニラ	野菜	
らっきょう	野菜	

ミョウガ	野菜	
かぶ	野菜	
ごぼう	野菜	
やまいも	野菜	
青さやえんどう	野菜	
未成熟そらまめ	野菜	
まくわうり	野菜	
とうがん(冬瓜)	野菜	
食用菊	野菜	
モロヘイヤ	野菜	
ズッキーニ	野菜	
長いも	野菜	
セリ	野菜	
くわい	野菜	
つぼみ菜	野菜	
きくいも	野菜	
あさつき	野菜	
小瀬菜	野菜	
まるいも	野菜	
スナップエンドウ	野菜	
小松菜	野菜	
マコモタケ	野菜	
ヤーコン	野菜	
バラ	花き・花木	
宿根アスター	花き・花木	
ヒマワリ	花き・花木	
コスモス	花き・花木	
菜の花	花き・花木	
カーネーション	花き・花木	
ハス	花き・花木	
アヤメ	花き・花木	
れんげ	花き・花木	
キク	花き・花木	
その他花き※1	花き・花木	
りんご	果樹	
西洋なし	果樹	
もも	果樹	
うめ	果樹	
びわ	果樹	
かき	果樹	
くり	果樹	

いちじく	果樹	
キウイフルーツ	果樹	
ぶどう	果樹	
サクランボ	果樹	
ブルーベリー	果樹	
カリン	果樹	
クルミ	果樹	
ハuckleベリー	果樹	
えごま	その他の高収益作物	
小豆	その他の高収益作物	
種苗類※2	その他の高収益作物	
香料作物※3	その他の高収益作物	
たばこ	その他の高収益作物	

(内訳)

※1 その他花き:ゆり、しゃくやく、ききょう、ワレモコウ、オミナエシ、月見草、アルストロメリア、
カスミソウ、カンナ、ストック、ガーベラ、トルコキキョウ

※2 種苗類:トマト、ミニトマ
ト、なす、きゅうり、ピーマン、
オクラ

※3 香料作物:カモミール

(別紙4)

生産性向上のための取組

取組内容	備考
不耕起田植技術	
排水対策 (明暗きよ排水の整備、心土破碎)	
育苗・移植作業の省力化 (直播栽培、乳苗移植、プール育苗、密苗栽培、疎植栽培)	
土づくり (堆肥の施用、ケイ酸質資材の施用)	
肥料の低コスト化、省力化 (土壌分析・生育診断を踏まえた施肥、流し込み施肥、側条施肥)	
農薬の低コスト化、省力化 (種子の温湯消毒、農薬の苗箱播種同時処理、農薬の田植同時処理、共同防除)	
立毛乾燥	通常の成熟期から2週間程度ほ場で乾燥し、水分を減少させる(ただし、鳥害や脱粒防止から概ね10月中の刈取りが望ましい。)
担い手が行う取組	農地中間管理機構の借受者、認定農業者、認定新規就農者、集落営農組織、人・農地プランに位置付けられた地域の中心となる経営体
集積・団地化	1ha以上の取り組みかつ、1団地概ね1ha以上の団地化が対象 団地化については、別紙8のとおり
乾燥調製施設・農業機械の共同利用	
収穫・流通体制の改善 (フレコン出荷、オペレータやコントラクタ等への作業委託)	

(別紙5)

生産性向上のための取り組み(大豆)

取組内容	備考
種子更新	
排水対策 (明暗きょ排水の整備、心土破碎)	
雑草対策 (除草剤散布、草刈り)	
土づくり (有機質肥料の施用、土壌改良資材の施用)	
狭畦栽培	
耕うん同時畝立て播種	
農業機械の共同利用	
共同乾燥調製施設の利用	

(別紙6)

飼料作物(牧草)の範囲

作物名	備考
テオシント	
チモシー	
セタリア	
アカクローバ	
シロクローバ	
アルサイククローバ	
アルファルファ	
ガレガ	
オオクサキビ	
トールフェスク	
メドーフェスク	
フェストロリウム	
スーダングラス	
オーチャードグラス	
イタリアンライグラス	
ペレニアルライグラス	
ハイブリットライグラス	
スムーズブロムグラス	
ケンタッキーブルーグラス	
リードカナリーグラス	
バヒアグラス	
ギニアグラス	
カラードギニアグラス	
ローズグラス	
パラグラス	
パンゴラグラス	
ネピアグラス	

(注) 上記の飼料作物(牧草)については、食用に供される畜産物を生産するために飼養される牛、馬、羊、山羊に供される場合に限る。

(別紙7)

粗飼料作物等の範囲

作物名	備考
青刈りとうもろこし	
青刈りソルガム	
青刈り麦	らい麦又はえん麦を含む。またサイレージ化したものを含む。
青刈り大豆	
青刈り稲	
青刈りひえ	
子実用えん麦	
WCS 用稲	
わら専用稲	
飼料用かぶ	
飼料用ビート	
飼料用しば	
しこくびえ	
テオシント	
チモシー	
セタリア	
アカクローバ	
シロクローバ	
アルサイククローバ	
アルファルファ	
ガレガ	
オオクサキビ	
トールフェスク	
メドーフェスク	
フェストロリウム	
スーダングラス	
オーチャードグラス	
イタリアンライグラス	
ペレニアルライグラス	
ハイブリットライグラス	
スムーズブロムグラス	
ケンタッキーブルーグラス	
リードカナリーグラス	
バヒアグラス	
ギニアグラス	
カラードギニアグラス	

ローズグラス	
パラグラス	
パンゴラグラス	
ネピアグラス	

(注) 上記の粗飼料用作物等については、食用に供される畜産物を生産するために飼養される牛、馬、羊、山羊に供される場合に限る。

(別紙 9)

地力増進作物の範囲

作物名	備考
ソルガム(ソルゴー)	
イタリアンライグラス	
エン麦	
レンゲ	
クローバー	
クロタリア	
ヘアリーベッチ	
ライ麦	
ハトムギ	
大豆	
マリーゴールド	
ハイオーツ	
ギニアグラス	